

教育・研究等業績一覽

[illegible]

2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価 (記述式：900字以内)	ほぼ全員が保育者として子どもたちと関わることを踏まえて、毎回の授業は講義と演習の構成で実践的に知識と技能を身に付けていくことを目標にしている。 保育の場で出会う子どもたちが、豊かな感性や表現力を身に付けて創造性豊かに成長するために、幼児期の造形表現活動を効果的に展開できるよう基本的な事項と実際の展開例を紹介しながら実践的に学習できるように授業展開を念頭に準備に時間をかけた。 子どもが活動を理解し、やってみたい、できるようにしたいという意欲を引き出す動機づけが重要であり子どもたちを惹き付けるコミュニケーション力も大切である。 毎回の授業では、題材のねらいを明確にして、保育者の支援のポイントや準備から片付けまでの流れを一つ一つ分かりやすく解説していく。短期的には保育・教育実習に関連付けた内容で展開するが、長期的には全ての科目の授業内容が有機的に働き合い、全員が保育者としての実践力を身につけることが目標である。 学生自身が子どもの目線で表現の楽しさを実感し、探究心を持って創意工夫し、最終的には保育活動の改善や教材開発を推進できる応用力を身に付けさせることを目指した。多種多様な題材を取り扱えたことは学生たちの創作経験を豊かにし、自立した保育者になるためのスキルを高めることに貢献できていると感じている。	
3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み (記述式：900字以内)	全員が授業のねらいを意識しながら、楽しく学んで向上を目指している。はじめは「絵を描くことが苦手」「不器用だから」「センスがない」と自信をなくしていた学生も、子どもの全面发展を促す具体的な内容や方法を実践的に学んでいく中で、学び直しや再確認する機会にもなることから、できた喜びやつくる楽しさを味わい、自らの向上に気づく。もっと多くのことを学びたいという前向きな声が多く聞かれる。苦手意識を持たせない指導にも努めている。 また、良さを認め褒めること、褒められることの大切さ知る機会を通じて、個性や多様な表現に対するコメント力の向上を図れる機会を増やしたい。 学生が短時間でより多くの幅広い情報を得ることを目標に、テキストについては限られたスペースでより強く視覚に訴えかけられる画像の選択や加工、編集の工夫を今後も継続する。 2年生の授業に向けて、学生たちがより主体的に協力し合って作り上げることで大きな達成感や感動の共有につながる教材設定や関わり方を今後も工夫したい。	
4 教科書、教材の作成状況 (記述式：300字以内)	実際に作品等の手づくり見本を提示するとともに、準備や制作の手順等が分かるテキストを作成し配布している。テキストには途中段階の画像も掲載して分かりやすさに努めている。また、実習指導科目等の指導案作成や模擬保育に活用する学生が多く見られることから、指導案に編集し易いよう項目や構成を工夫した。 教材等については、保育の現場で一般化しているものだけではなく地域の自然環境や産業に触れる素材や伝統的なものから新しいものまで幅広く扱う。また、無理のない材料の入手や経費節減についても紹介する。	
5 学生の指導（課外活動・厚生補導等） (主要10件以内)	2024年5月・10月 2024年6月 2024年7月 2024年7月・12月 2024年12月	保育現場における「造形教室」の企画・準備・実施の指導、監修 大学祭における幼児を対象とした子どもの広場の開設 深川市教育委員会「夏休み手作り教室」学生ボランティア指導 深川市文化交流ホール「こどもまつり」における「工作コーナー」 深川市文化交流ホールでの人形劇公演
6 その他 (主要5件以内)	2024年11月	深川市市民公開講座 講師「冬の暮らしを彩る」
研 究 業 績		
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	○子どもの造形表現活動～環境と造形表現～ ・子どもの発達を促す造形表現活動を展開できる実践力のある保育者、センスの良い保育者を養成する授業、地域や学生の実態に応じた教材の精選、系統性のあり方について ・保育の場における子どもの造形表現活動を支える人的環境・物的環境のあり方や子どもの文化の効果的な活用について ○日本の伝統芸術の表現と技法 - 陶芸の歴史と伝統手法による制作、材料について ○拓大ミュージカル活動の成果と課題、舞台製作の改善	
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	○出前保育「造形教室」の体験がもたらす学生の意識の変化から見える成果と課題 ・子どもの造形表現活動・集団制作における動機づけと効果的な展開方法や素材と道具の扱い等について保育施設における造形教室を実施して検証する。 ・学生が学びの実践の場として各自の課題を明確化し、克服するプロセスを検証する。 ・保育現場の描画活動の課題について検証する。 ○領域「環境」のねらいを踏まえた幼児の造形表現活動の教材と展開について検証する。 ・地域の自然物や産業、文化等を活かした保育活動を提案する。 ・授業で使用する草花を保育学科圃場において種から育てることで学びの内容の深化を図り検証する。	

3 研究助成等 (主要 5 件程度)	(1) 文部科学省科学研究費					
	なし					
	(2) 学内					
	なし					
	(3) 学外					
なし						
4 資格・特許等 (主要 3 件以内)	高等学校教諭専修免許状（美術）					
	中学校教諭 1 級普通免許状（美術社会）					
	高等学校教諭 2 級普通免許状（美社工）					
	養護学校教諭 1 級普通免許状					
著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約	
詩誌『れん』31 号		共著	1990 年 7 月	北見詩の会	挿絵（p.2,3,5,50,表紙）	
「利尻富士」		共著	1997 年 5 月	『私の写生地案内』日 本文教出版	p.5 スケッチ作品と写生地の解説集	
『学校改善につながる学校評価の条件に ついての研究～高等学校の実践事例から ～』実践研究報告		単著	2008 年 2 月	筑波大学大学院	学校評価をめぐる現場の状況と学校改善 との関係について高等学校の事例分析を もとに考察をおこなった。調査対象校は 北海道の全日制普通科高等学校から 10 校 を選び学校改善と学校評価のそれぞれに ついてその状況や所感を語っていただい た。また聞き取り調査に先立ち学校評価 の実施状況を把握するために質問紙調査 を行っている。その他筑波大学大学院修 士課程教育研究科に社会人入学で在籍し ている教員 4 名からも聞き取り調査にご 協力をいただいた。PDCA サイクルの各 段階について分析をもとに作成した図か ら学校改善に至る 21 のケースが得られ た。そこにある 6 つのパターンから学校 改善に向けた 5 つのポイントを明らかに し学校経営方針と学校評価の重要性の重 要性を指摘している。	
「本校定時制における取組」		共著	2016 年 2 月	『会誌』北海道高等学 校教頭・副校長会	p.62-81 第三部会：高等学校定時制課程に おいて近隣高等学校からの転入生の事例 および全校生徒についての気質の分析を まとめ 2015 年 5 月に行った提言の内容。	
「不登校の児童生徒の対応の在り方に ついて」		共著	2019 年 4 月	『平成 30 年度研究集 録』北海道特別支援学 校長会	p.29-43 第 3 研究部会：全道の特別支援学 校における不登校の実態把握と対応につ いてまとめた。	
「幼保連携型認定こども園における造形 遊びの現状分析―「環境」領域と「表現」 領域について―」		単著	2020 年 3 月	『拓殖大学北海道短 期大学研究紀要―幼 児教育研究編―』第 1 号	幼保連携型認定子ども園における造形遊 びに関わる教育活動を取材し、「表現」と 「環境」の教育活動におけるこども園と 小学校との接続について検証した。 活動要素と要素分析により「適切な環境」 が構成される様子から「人間関係」「環境」 「表現」といった各領域につながるポイ ントを整理することで、育てたい領域に 向けて意図的に盛り込まれた活動の成果 が確認できた。	
【リカレント教育プログラム】第 28 回保 育セミナー2024：気になる子どもの発達 理解とその支援―子どもとのあたたかい 関係を育むヒントとは？！―		共著	2025 年 3 月	『拓殖大学北海道短 期大学研究紀要』第 5 号	本稿は、拓殖大学北海道短期大学保育学 科におけるリカレント教育「第 28 回保育 セミナー2024 気になる子どもの発達理 解とその支援―子どもとのあたたかい関 係を育むヒントとは？！」の報告である。 講師及び本学保育学科の教員がそれぞれ 分担して執筆したものである。そのうち 「はじめに」の項を担当し、本セミナーの 始まりと変遷、今回の実施形態、参加者の 概要についてまとめている。	
研究業績（過去 3 カ年分）				国際的活動 の有無	社会的 活動の 有無	
著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
1	0	0	0	無	有	

学 内 運 営 業 績		
1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)	2024 年度	学生・国際交流委員会
	2024 年度	第 41 回拓大ミュージカル「舞台美術」担当
学 外 活 動 業 績		
1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通しての活動 (主要 10 件程度)	2017 年度	北見市障がい者支援ネットワーク会議重心病会長
	2019～2020 年度	天塩町学校運営協議会委員
	2024 年 5 月～	深川市舞台芸術交流協会副理事長
2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度)	北海道高等学校美術工芸教育研究会 会長（2017～2020 年度）	
	北海道高等学校教育研究会芸術部会 部会長（2019～2020 年度）	
	日本高校教育学会 会員（2006～2008 年度）	
	日本高校教育学会北海道支部 会員（2011～2020 年度）	
	大学美術教育学会 会員（2020～2021, 2023 年度～）	
	全国大学美術造形教育教員養成協議会 会員（2024 年度～）	
	一般社団法人 日本美術教育学会 会員（2024 年度～）	